



グリーン交悠録

「昭和ひとけた会」の記憶④

ゴルフのみならず

経済界でも発揮してほしい

国際社会における「交悠録」

本誌主幹

大中吉一

東京ゴルフ倶楽部



「男が男に憧れる」、小林陽太郎氏

「男が男に憧れる」
ダンディが生んだ国際大学

今月はわが盟友ともいえる小林陽太郎氏のお話をしたいと思います。彼は、「昭和ひとけた会」の中でも抜きんできた紳士であり、ゴルファーでした。

富士ファイルムの創始者である小林節太郎氏の長男としてロンドンで生を受け、富士ゼロックスに出向し、社長として同社の成長を成し遂げた敏腕ぶりをご記憶の方も少なくないと思います。

「東京ゴルフ倶楽部」、「程ヶ谷カントリー倶楽部」、「スリーハンドレッドクラブ」など、名門コースのメンバーであり、そこを舞台に年に

数回のゴルフを共にする間柄でした。その「交悠録」に名を連ねたのは、経済同友会を代表するウシオ電機株式会社設立者である牛尾次郎氏、秩父セメント（現太平洋セメント）の諸井虔氏、セコム創業者の飯田亮氏、日本アイ・ビー・エムの椎名武雄氏など、毎回メンバーを入れ替えながら、時には静岡県内の「アイブハンドレッドクラブ」まで足を伸ばし、雄大な富士山の姿を背景に「交悠録」を重ねてまいりました。

小林陽太郎氏のプレーぶりはまさに紳士そのものであり、まさにその精神と所作、立ち居振る舞いのすべてがダンディであり、「男が男に憧れる」ほどの魅力をお持ちの人物でした。

富士ゼロックスの経営者だった時代に、高度成長期の中、経済同友会の代表幹事としてもその敏腕を振るわれました。

2015年に82歳で鬼籍に入られました。素晴らしい経営手腕と日本男児のあるべき姿の代表として、まだまだご活躍いただきたい方でした。

その小林氏が中心になり設立したのが国際大学（International University of Japan）です。広くわが

国の経済界、教育界並びに地域社会の強い支援を背景に、国際社会で活躍できる高度な専門的知識を持った職業人の育成を企図する大学院大学として、1982（昭和57）年に設立され、初代理事長には日本興業銀行特別顧問で経済同友会の終身幹事であった中山素平氏が就任されました。

国際的受容度の高い有為の人材を育成するという観点から、講義は原則として国際用語である英語で行うという日本初の取り組みで注目されました。

先日行われた40周年の式典では、わが友人である第92代内閣総理大臣である麻生太郎氏が祝辞を述べましたが、実に素晴らしい内容であったと聞いております。

この40年の歴史の中から、特に東南アジア諸国では何人もの卒業生が大臣となって活躍していると聞きます。小林陽太郎氏の後を継いだ三井物産株式会社元取締役会長の檜田松

瑩氏が現在の理事長ですが、この素晴らしい歴史を受け継ぎ、いっそう発展されることを祈っております。

国際大学では、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイなど、とくに東南アジアの国々から優秀な人材が、日々熱心に学んでいると聞きます。

日本で学び、そこで得た経験を基盤に、大いに日本のファンになっていただき、ひいては国際交流という意味での「交悠録」を築いていけたら素晴らしいことだと思います。

「男が男に憧れる」ほどの魅力を持った小林陽太郎氏も理事長を務められた国際大学です。学生たちが「憧れる」。日本を広く知らしめ、日本を中心に未来のアジアの発展に繋がるような学び舎であってほしいと切に願います。

「三極委員会」を活用し、さらなる成長戦略を

小林陽太郎氏が国際大学の理事長を務められていた頃、2009年にアジアでは日本に次いでインドと中国が仲間入りしたのが「三極委員会

（Trilateral Commission）です。そもそもは、

国際社会における日本・北米・欧州の協同を促進する為に、1973年に設立された非営利の政策協議組織「日米欧委員会」で、マクロ経済政策、国際通商・金融、政治・安全保障、エネルギー・科学技術等、国際

社会の諸問題について共同研究と討議を行い、相互理解を深めるとともに、政府、民間の指導者に対して政策提言を行うことを目的とした、パリに本部を置く団体で、創設者には、デイヴィッド・ロックフェラー、ズビグネフ・ブレジンスキー、ジミー・カーターなどが名を連ねています。

日本・北米・欧州のそれぞれに委員会が設けられており、総会はこの3委員会が共同で運営しています。日本国際交流センター（JCIE）は当初から日本委員会事務局を担ってきました。

国際情勢の変化やグローバル化の進展に伴って近年は参加国が増え、欧州では1990年代半ばに中欧諸国が参加。北米では2000年にメキシコが新たに参加。アジア太平洋地域においても

2000年以降、日本以外にも参加国を拡大することとなり、日本委員会はアジア太平洋委員会に拡大されました。そこで「Trilateral Commission」の日本語名称も「日米欧委員会」から「三極委員会」に改称されたのです。

変動する世界情勢の中、経済面でも国際協調の意義は拡大していると思えます。

日本委員会事務局を務める日本国際交流センターも、さらなる発言力を発揮し、岸田総理によるリーダーシップを後押しする様な体制となることを願っています。

日本の高度成長を支えたリーダーたちが創設した「国際大学」と世界に認められた日本を象徴する「三極委員会」。

日本が世界に貢献できるのは経済面でのリーダーシップにほかなりません。

これからのリーダーたちが、国際企業としての日本の企業の発展を推進し、広く国際間での「交悠録」を積み重ね、日本の、ひいてはアジア諸国のさらなる高度成長に寄与されることを祈ります。